

「新海洋混合学」国際活動支援成果報告書（2017年度後期分）

2017年 7月 5日

計画研究班名：A01-1

申請者氏名・所属・職名：田中雄大・国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所・任期付研究員（申請時：東京大学大気海洋研究所・特任研究員）

申請者連絡先 電話・メール：04-7136-6047, tanaka-t@aori.u-tokyo.ac.jp

対象者氏名・所属・職名：田中雄大・国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所・任期付研究員

対象者連絡先 電話・メール：04-7136-6047, tanaka-t@aori.u-tokyo.ac.jp

相手氏名・所属・職名：Il-Ju Moon, Jeju National University, Local Organizing Committee (LOC) of the 19th PAMS Meeting

相手連絡先 住所・電話・メール：pams.korea@gmail.com

申請項目（複数可、数字を記入）：7

1. 国際共同航海の調整, 2. 拠点形成に関わる派遣・招聘, 3. 国際共同研究関連, 4. 研究者派遣, 5. 海外研究者招聘, 6. 研究技術研修, 7. 研究動向調査, 8. その他（ ）

申請課題名：Pacific-Asian Marginal Seas (PAMS) Meeting での鉛直混合・グライダー観測に関する研究動向調査

成果報告要旨（A4 数枚以上図表・写真等を含む研究成果報告詳細版を別ファイルで添付すること）：

2017年4月11日から13日にかけて韓国済州島で行われた、第19回Pacific-Asian Marginal Seas (PAMS) Meetingでの講演を聴講した。会議では日本海、東シナ海、南シナ海、黒潮を中心に、陸棚縁辺近傍での内部潮汐波の発生過程、風起源の近慣性内部波の下方伝播過程、水平・鉛直混合を介した栄養塩輸送による高低次生産維持過程など、多くの興味深い講演を聴講した。一方、グライダーによる鉛直混合・内部波の観測については、韓国の研究者の発表が当日キャンセルになった事もあり、報告例がなかったが、これから研究が進められる分野であると思われた。また、千島海峡でのグライダー乱流観測に関して口頭発表を行い、海外の研究者と意見交換をした。

全体計画・計画研究への寄与：

本会議で発表された内部波の発生・伝播過程の挙動など、今後 A01-1 班やその他の班と共同で行う観測計画の立案や観測結果の解釈において参考にしたいと考えている。また、

自身のグライダー観測結果について、大潮小潮周期との関連性など今後議論をすべき点を認識する事ができ、今後の研究に有益なものとなった。

制度の改善点・感想等：

東京大学大気海洋研究所の安田一郎教授と小林奈緒美さん、東北水研の市川部長と照井係長には、会議参加等に関する事務手続き、準備などで大変お世話になりました。感謝申し上げます。

実際の日程：

2017年

4月10日：仙台発・インチョン/ソウル経由・済州島着

4月11・13日：済州島西帰浦 KAL ホテルにて会議に参加

4月14日：済州島発・釜山および名古屋経由・仙台着

¥

使用した予算内訳（旅費とその他の経費に分けて記述）：